

漢字の世界 広がる童話

小学校で30年以上教えてきた花園大学講師の井上憲雄さん(65)(幼児教育)が、小学生が漢字を楽しく学べるよう工夫した学年別の漢字童話シリーズ(本の泉社)を出版した。特別支援学級で児童に接した経験から、漢字を覚えるには物語の中に織り込むのがいいと気がついたのがきっかけだった。「漢字を学び、世界を広げてほしい」と願う。(松田聡)

小学校で学ぶ漢字は学習 習法を発案したのは、15年指導要領で1026字。例 前、兵庫県的小学校で特別 支援学級に通う4年生の男 子児童を受け持った時だっ ちは、「ぐず太郎」と呼ば 子児童を受け持った時だっ た。好奇心が強く、練習す れば自転車に乗ったり、三 味線を演奏したりできるよ うになった。本も好きだっ たが、漢字が読めなかった。 と「遊覧飛行」の「覧」の 従来の学習方法では漢字 が覚えられないのではない か。「学ぶ喜び、読める楽 しさを味わわせてあげた い」。試行錯誤の末、1年 生の漢字を織り交せた童話 を作り、一緒に音読すると

花園大講師 支援学級経験生かす

「文脈で意味予想」

すらすら読めた。男子児童 は、話の中に感情が入って いれば読めることに気づい た。「従来のドリルは単文 だけなので、漢字がイメー ジにくい。お話は文脈の 中で意味を予想しながら読 め、忘れてもストーリーを 思い出せば読み方も思い出 せる」

男子児童は、次々に漢字 を覚え、「先生、もっと作 っ」と催促するまでに。 漢字童話が読めると、漢字 だけを取り出しても読める ようになった。意欲的に学 ぶ姿に刺激され、寝る間も 惜しんで童話を書いた。男 子児童は、6年生までの漢 字を覚えるのに1年かから なかったという。

今回のシリーズでは、こ れまで出版してきた自身の 創作童話による漢字教本を 改善した。お話の一つの場 面で学ぶ漢字を10字にとど め、文章全体で偏りが出な いよう心掛けた。文中での 読み方以外の読み方も紹介 するなどした。

シリーズは昨秋4、6年 生用を発行し、1、3年生 用を1月中旬に発刊する予 定。「外国人の日本語学習に も活用されている。漢字に は色々な読み方や使い方が ある。漢字を学び、物事を多 面的に思考できるよう役立 てる」と期待する。

1冊1100円(税込 5810・1581)。



童話を楽しみながら漢字を学べる本を作った井上さん(中央区)